

## Improvement Of Teaching Methods(7)

### 高大接続改革

校長

平成24年8月28日、当時の文部科学省平野大臣より中央教育審議会(以下中教審と略す)に対して、「大学教育の円滑な接続と連携の強化のための方策について」諮問がなされました。凡そ2年4ヶ月の審議を経て、中教審は、平成26年12月22日「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」(以下 高大接続改革と略す)を答申しました。これを受け

文部科学省は、平成27年1月の高大接続改革実行プランに基づき、具体的な実現に向けた方策について検討し、平成28年3月31日高大接続システム改革会議は「最終報告」を公表しました。さらに文部科学省は、今年8月31日高大接続改革の着実な実現に向けて検討・準備グループ等を設置し、「高大接続改革の進捗状況について」を発表しました。

このように高大接続改革は課題解決を図るための具体的な方策を示しながら、確実な実現に向けて進んでいます。私は中教審より平成26年12月の高大接続改革の答申が示された時、高大接続改革が本当に実現できるのか疑問視していました。しかし昨年12月に高大接続テストの「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」のたたき台が示された時に、現実味を帯びてきたことを感じざるを得ませんでした。

大学入学希望者学力評価テストが実現されれば、現在の教育改革の最大課題である大学入学者選抜のみならず、高校と大学を接続する教育についても抜本的改革を図ることになります。

高大接続改革の大まかな進捗状況を示すと次のようになります。

#### 1. 高等学校教育改革

- ① 教育課程の見直し→平成29年度に高等学校学習指導要領改定(予定)
- ② 学習・指導方法の改善と教員の指導力向上→「主体的・対話的で深い学び」について議論 教特法、免許法、教員センター法改正準備
- ③ 多面的な評価推進→多様な検定等の実態や活用方法の検討 高等学校基礎学力テスト(仮称)の検討・準備

#### 2. 大学入学者選抜改革

- ① 大学入学希望者学力評価テストの導入→検討・準備グループを設置し、記述式の導入・テストの実施時期・英語の実施方法等について検討
- ② 個別大学の入試改革→受検者を多面的・総合的に評価する入試改革の取組 地歴公民や理数等に関する新たな評価手法の開発及び普及 入試の新たなルールづくりや調査書・提出書類の改善

#### 3. 大学教育改革

○「三つの方針」に基づく大学教育の質的転換→卒業認定・学位授与、教育課程の編成・実施、入学者受け入れの三つの方針の策定・公表の義務付け それに伴う認証評価制度の改善(H30～)

これら一連の改革のなか本校での最重要課題は、高等学校基礎学力テスト、大学入学希望者学力評価テストへの対応になります。

高等学校基礎学力テストは義務教育段階の学習内容を含む高校生に求められる基礎学力と学習意欲の喚起を目的として導入が検討されました。現段階でのあり方は、平成31年度試行実施し、35年度実施となっています。当面は国数英の3教科で記述式を含む出題がされます。また、英語は「話すこと」を含む4技能の問題構成とされています。テスト結果は学力定着度合いを段階で表示し、当面、大学入試や就職には用いられません。

高等学校基礎学力テストは義務教育段階の範囲が含まれるだけに、基礎学力の定着度を測り、基礎学力テストの到達度を底上げするため、本校生徒の中学校段階の学力を把握し、場合によっては既習内容の学び直しが必要となることも考えられます。

大学入学希望者学力評価テストは、いままでのセンター試験では測ることのできない学力を測るテストとして導入されます。センター試験が知識定着を測る記号式テストなのに比べ、新テストは思考力・判断力・表現力を中心に評価する問題が出題されることとなります。現行のセンター試験より難易度が高くなると予想されます。

現行のセンター試験が知識偏重型の暗記中心の勉強になりがちなのに対し、大学入学希望者学力評価テストは、大学入学希望者全員が受験するテストです。このテストには記述式の問題が盛り込まれるだけでなく、英語では「話す・書く・聞く・読む」の4技能を重視する方向に進んでいます。そのため英語は、国が認定した民間の資格や検定試験を積極的に活用し、国は将来的に英語の作問をせず、英語は民間の資格や検定試験のみとなり、受験生は自分の英語力を客観的に把握するために民間の資格試験や検定試験を受けることとなります。

大学入学希望者学力評価テストが導入されると、このテスト後に各大学の個別試験になります。文部科学省はAO入試、推薦入試、一般入試のあり方の見直しを迫っています。例えば、募集要項における「推薦入試における学力試験を免除」の削除を求めています。また、文部科学省は各大学に対してアドミッションポリシー(求める学生像)に合わせた入試を実施するように求めています。そのため各大学は、思考力・判断力・表現力を求める試験を課さなくてはなりません。

本校の生徒が自らの知識・技能を高め、本校で学習するプレゼンテーションやインタビューの技術を身につければ、今後の入試で有利に展開すると思っています。アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、課題に対して思考力・判断力・表現力が身につく授業を展開してください。